

平成 21 年 4 月 16 日

## 第 2 回中連協代表団派遣 実施報告書

中連協事務局

実施期間： 2009 年 3 月 2 日（火）～3 月 5 日（木）

訪問地： 天津・北京

### 1. 代表団派遣の目的

昨年度の実施（杭州および上海）に続き、本年度も中連協として第 2 回代表団を派遣した。滞在中、中国側旅行会社との意見交換、ならびに日本大使館の査証発給担当者との意見交換を通し、現地側の訪日団体観光に対する考え方や現状の課題等を把握すべく努めた。

中連協会員各位に対しては、今回の訪問で得た生の情報の発信を行い、今後のビジネス面での活用に結び付けて頂きたい。

### 2. 全体スケジュール

日付	時間	用務
3/2（月）		（各自にて天津集合） 結団式 ブリーフィング （天津泊）
3/3（火）	AM  昼/11:00～ PM	* JNTO セミナー（中連協参加者向け） * 中連協セミナー（現地旅行会社向け） * 昼食意見交換会（現地旅行会社/中連協代表団） * 現地旅行会社訪問（天津 CITS および天津中旅） * バスにて北京に移動 （北京泊）
3/4（水）	AM  昼/11:00～  PM  夕方/16:30～  夜/18:00～	* 北京の旅行会社訪問（CITS 総社および中青旅） * 中連協セミナー（現地旅行会社向け） * 昼食意見交換会（現地旅行会社/中連協代表団） * 日本大使館査証発給担当者との意見交換会 * 中国国家旅游局表敬訪問 * 「中国マーケットの将来像について」 東方尊貴： 和田総経理 * 北京在住日本関係者との意見交換会 （北京泊）
3/5（木）		（自由解散）

### 3. 中連協代表団参加者名簿(敬称略)

吉野一男	(株)ニュージャパントラベル	= 団長(中連協幹事)
佐野誠	(株)ジェイティービー	
横塚淳也	(株)ケイアイイーチャイナ	
今西裕隆	(株)日本旅行	
新垣信次郎	沖縄ツアーリスト(株)	
岡本立雄	(株)国際交流コーポレーション	
平神賢上	太平観光(株)	
唐玉剛	(株)大地エージェンシー	
金子玲子	(株)天和観光	
村上心一郎	(株)和平旅行	
穎川秀敏	(株)ジェイ エス ティ	
劉文	(株)共栄ツイントラベル	
高垣太郎	中紀バス(株)	
陳乃華	シティトラベル(株)	
清水和彦	アメガジャパン(株)	
川島由美子	(株)PTS	
付蓄	(株)日清観光	
馬慎如	(株)アジアネットツアー	
杉田静一	(株)ハッピーワールド	
成田金城	(有)日中総合サービス	
野替徹也	新富観光サービス(株)	
李東燮	(株)アルバックス旅行	
王一仁	総合ワールドトラベル(株)	
鉄民	(株)東日本ツアーリスト	
須山高志	中連協事務局	
三浦雅文	中連協事務局	

以上 26 名

### 4. 公式行事

3月3日(火)

JNTO セミナー(講師: JNTO 北京事務所 柏木所長)

9:30~10:30

場 所: 天津日航酒店

- \* 北京事務所管轄地域のマーケット事情についてパワーポイントによるプレゼンテーションを通じ、説明をいただいた。
- \* 2008年の訪日中国人は約100万7百人(日本全体への訪日外客は、852万人)2007年は94万人であった。



- \* 一般的には新聞広告を用いて宣伝を行い募集していることが多い。
- \* 日本への渡航者の最近の傾向としては、一般的な観光地訪問のほかに、インテリア関係、あるいは、ペット用品に興味を持つ人が増えている傾向を示している。
- \* 教育旅行分野は日本にとって今後安定成長分野としてとらえられるであろう。複数校がまとまって来日する富裕層の子息を中心とした有望な市場と見ている。  
2008年は北京市、天津市から56校・約2,300名が日本に渡航した実績あり。
- \* 北海道は有望なデスティネーション  
最近、中国で放映された「非誠勿擾」という映画で、北海道東部がロケ地として使われたことから、北海道の人气が急速に高まった。JNTOもこの状況を敏感に着目し、訪日プロモーションを実施し、100名の座席を用意して販売したところ、たちまち完売し、自信を得たとのこと。  
(本セミナー実施翌々日の3月5日(木)のNHKニュースの中で、北海道の人气が高まっていることが紹介され、柏木所長の活躍ぶりも放送を通じて紹介された)
- \* 今後の中国におけるその他の有望ジャンルについて  
インセンティブ旅行  
マーケットとしては拡大しており、旅行会社向け説明会、中国一般企業向け説明会、日系企業向け説明会等を積極的に開催している。現在のところ小規模インセンティブ旅行が非常に盛ん。  
大規模インセンティブ訪日旅行も開始されたが、査証取得の条件緩和など、改善すべき課題も残っている。  
クルーズ  
北京・天津発の九州・沖縄方面に人気  
上海発としては、2010年に日本や韓国を周るコースの設定が予定

### 中連協セミナー（事務局から現地旅行社向け）および意見交換会

出席旅行会社名：

天津 CITS、経典国旅、天津市中旅、天津青年旅行社、天津康輝、天津招商局、中貿旅行社、天津中信 以上8社（16名）

中連協のこれまでの活動ならびに訪日団体観光の取扱い拡大に目指してきた背景と今後の役目について、資料を配布し、説明を行った。

### 天津の旅行会社訪問

日本側参加者がA・B、2グループに分かれ、天津 CITS および天津中国旅行社を訪問し、意見交換を行った。



- \* 定番のゴールデンルートについて価格競争が激化している一方で、北海道などの高額商品にもマーケットが反応している。
- \* これから数年間のうちに、マーケットはさらに拡大が予想されるため、日本側旅行会社の対応を期待されている。
- \* 販売価格については5,000元（75,000円）以下または10,000元（150,000円）程度の商品が比較的売れる傾向にあるが、中途半端な販売価格を設定した商品については買い手が見つみにくい傾向があるとのこと。

### 3月4日（水）

#### 北京の旅行会社訪問

前日同様、A・B2班に分かれて、CITS 総社および中青旅を訪問し、意見交換を行った。

#### 中連協セミナー（事務局から現地旅行社向け）および意見交換会

出席旅行会社名：

CITS 総社、中青旅、天鵝国際旅游公司、鳳凰假期、北京青年旅行社、中信国際旅游、中旅総社、康輝国際旅行社、北京海外旅游、招商局国際旅行社、携程（C-trip）国旅、神舟国際旅行社、翔昇国際旅行社、和平国際旅行社、中商国際旅行社、以上15社

#### 日本大使館訪問および意見交換会

日本大使館： 中田一等書記官（左側）



- \* 発行件数の現状と今後の増加に関する現状対応策、申請から受領までの所要日数等についての発給体制について説明を受けた
- \* 大型インセンティブツアーの場合の査証一括申請場所についての対応についての現状を聞いた。
- \* 申請書の記入間違い等に関する大使館の対応について説明があった。
- \* 個人査証についての見通しについて
- \* 「自由行動」を「売り」にしている中国側旅行会社の存在については査証申請の段階で発行を拒否する方針を聞いた。
- \* 手配完了後、査証発給が間に合わない理由で手配が取消されるケースが起きており、緊急発給等に対する日本大使館の対応について質疑をおこなった。
- \* 招聘保証書の記入間違いに対する対応についての大使館の考え方について質問があった。

### 中国国家旅游局表敬訪問

中国国家旅游局： 王副処長（正面右側）および周副調査員正面左側）



- \* 内需拡大の方針から中国へのインバウンドと国内旅行を促進する立場にある。
- \* 世界的な経済不況の影響を受けてはいるが、今後とも日本からの訪日客拡大に期待を示す。
- \* 今後とも、国内旅行・中国インバウンドでの取組みを強化したいとのこと。
- \* 個人による海外旅行については規制なし。

### 現地市場に関するセミナー

講師： 和田正信氏（東方尊貴商務服務 総経理）

テーマ： 2020年中国からの訪日客 600万人時代の到来について



- \* 内需拡大の方針から中国へのインバウンドと国内旅行を促進する立場にある。
- \* 世界的な経済不況の影響を受けてはいるが、今後とも日本からの訪日客拡大に期待を示す。
- \* 今後とも、国内旅行・中国インバウンドでの取組みを強化したいとのこと。
- \* 個人による海外旅行については規制なし。

- \* 日中の旅行業界の果たした役割と今後の体制整備について、中国インバウンド側では開放政策の進捗につれ、日本の主要な旅行会社から大量の送客を受け入れ、そして多くの要請に対応し、実績を伸ばしてきた。
- \* 日本が2020年までに中国の訪日客600万人を受け入れるとするならば、日本側旅行会社の体制として、今度は中国側の要請にどのように対応し、役割を果たせるかが大きな課題になるのではないか。体制の整備が必要と思われる。
- \* 例えばガイド問題・・・
  - 日本人ガイド：案内には的確性があるが、中国語の語学力に難がある傾向
  - 中国人ガイド：中国語は饒舌ではあるが、日本の観光案内は殆どでたらめ。
- \* 通常の商取引についての問題
  - 手配上の交信で、日本の旅行会社は「回答が遅い！」との指摘を聞いている。訪日客を増大させる上ではありえない実態。当然、通常2時間以内の回答可。
- \* 日本に対する印象について
  - 中国人旅行者の日本に対する印象は概ね良好ではあり、リピーター化する可能性は十分に高い。しかし、これは、日本の旅行会社が評価されている訳では必ずしもない。この実態を真摯に認識するべきである。中国側旅行会社にとって頼りがいのあるランドオペレーターに成長されることを目指してほしい。
- \* 2020年ごろのビジネスモデルについて
  - JTBの海外旅行送客実数は年間、約300万人に対し、CITSの海外旅行送客実数は年間、約8万人にとどまっている。この差をどのように見るか。
- \* 中国市場と日本市場との違い
  - ・日本：ブランド戦略を進めてきた
  - ・中国：ブランドというものが無い

A社の集客不良をB社とのコラボレーションにより、ツアーキャンセルを防止し、実施させる努力を行っている。だから、ゴールデンルート5日間コースは定番となる。
- \* 中国全体の経営戦略およびブランド戦略について
  - 日本の旅行会社にとっても、地元旅行会社との合併（合作）の手法などを取り入れ、当地旅行会社に日本の優れたノウハウを提供するチャンスがあるのではないかと中国が持っていない多くのものを日本の旅行会社は持っている。
- \* 中国側からの要請を、受け地である日本が「川下」のみで受けるのではなく、中国本土に来て「川上」から中国発アウトバウンドに貢献する機会があるのではないかと思っている。

**在北京の日本大使館・日系団体・旅行会社・航空会社関係者との意見交換会および懇親会**

出席団体名：

日本大使館領事部、日本航空、全日空、札幌経済交流室、新潟市北京事務所、自治体国際化協会、ET Pass、交通公社新紀元国際旅行社、全日空国際旅行社、日航国際旅行社、日本旅行、近畿国際旅行社、東武トラベル、新日国際旅行社（HIS）、東方尊貴、JNTO 北京事務所、以上 16 団体（18 名）



現地で活躍される日本大使館の方、JNTO 北京事務所、地方自治体から派遣されている方々、日系旅行会社駐在員の方々、日系航空会社勤務の方々にお集まりいただき、懇親会の開催を行った。

公式行事が大過なく終了したこともあり、中連協代表団メンバーとお招きしたお客様との懇親は時間の過ぎ去るのが分からないほどの盛り上がりを見せた。

旅行業界を取り巻く厳しい環境の中で、今回の訪中目的である現地の状況についてメンバー各位が今後の業務に活かし、また中連協会員への情報提供を行うことにより、今後の中国からの訪日市場の健全な発展に寄与したいと考える。今後とも、中連協の活動に際し、現地からのサポートを頂きたい旨、強く要望した。

ご参加の協力を得た各位のご理解とご協力に事務局として感謝申し上げたい。

以上



